

当協会では、平成4年度より県内のいくつかの市町村の小中学校で「小児生活習慣病予防健診」（以下、小児健診と略）を実施しています。

今回は、平成16年度から平成25年度までに実施した小児健診の結果から、肥満傾向およびやせ傾向にある児童・生徒の割合がどのように変化しているか検討してみました。

調査対象は、平成16年度から平成25年度までに小児健診を実施した小学4年生・中学1年生に限定しました。（※市町村によっては小学5年生・中学2年生で実施していますが、今回の調査対象には含まれていません。）

小学4年生男子・小学4年生女子・中学1年生男子・中学1年生女子のそれぞれで、高度肥満（肥満度50%以上）・中等度肥満（30～49.9%）・軽度肥満（20～29.9%）・やせ（-20%以下）に該当する児童・生徒の割合が10年間でどのように変化しているかを見ました。（※肥満度（%）=[(実測体重-標準体重)/標準体重]×100 ※標準体重…性別・年齢別・身長別にみた標準体重）

その結果、小学4年生男子の高度肥満にある児童の割合と、中学1年生男子の高度肥満・中等度肥満にある生徒の割合が有意に減少していました。また、小学4年生女子・中学1年生女子においては、有意な変化は見られませんでした。

今回の調査で、男子の肥満傾向児の割合は減少していましたが、まだまだ宮崎県の肥満傾向児の割合は全国に比べて高いレベルにあるようです。平成25年度の9歳から14歳における全国の肥満傾向児の割合は男子約8～11%、女子約7～9%であるのに対し、宮崎県は男子約9～14%、女子約9～12%であり<sup>1)</sup>、今回の対象においても、男女ともに約10～20%を推移し高い状況にあります。

肥満度を基準にした欧米の研究では、7歳の肥満の40%、思春期肥満の70～80%が成人肥満へ移行するという結果も報告されています。

県内の子どもたちが健やかに成長し、将来も健康でいられるように、子どものうちから生活習慣病になりにくい生活を心がけることが大切です。

一方、やせ傾向にある児童・生徒の割合は、県内でも今回の対象でも全国と比較すると低い傾向にありますが、中学生女子においてはやせ傾向にある生徒の割合が高い傾向がありました。やせ傾向児に対する対策も念頭におく必要がありそうです。

参考文献  
文部科学省：平成25年度学校保健統計調査、2013

〈調査対象数〉

小学4年生		中学1年生		計
男子	女子	男子	女子	
4,195	4,013	4,386	4,197	16,791

肥満およびやせ傾向児出現率/年次推移

